10月幼稚園だより

令和８年 10 月 1 日
千代田区立番町幼稚園
園長　美越　英宣



園長先生と力士との
大一番をみんなで応援
～親子で遊ぼう～

子どもたちの『よさ』は未来へ続く

副園長 荒木 久子

（番町幼稚園HP）

９月 26 日に、6 月の台風によりやむなく中止となった「親子で遊ぼう」の代替開催を、愛児会の皆様のご尽力により実施することができました。

「子どもたちの笑顔のために！」を合言葉に、お忙しい中、企画や準備、そして代替開催に向けた様々な調整やご対応をしてくださった愛児会の皆様、保護者の皆様のお力添えがあってこそ実現したものです。心より感謝申し上げます。この会の意義と成功は、会場いっぱいに広がる子どもたちと保護者の皆様の笑顔が何より物語っていたように感じます。改めまして、ご尽力いただいたすべての皆様に深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

さて、今年、約二十年前の教え子４名と再会する機会がありました。

当時、心優しく涙もろく、甘えん坊でみんなから愛されていた A さん。二十年の時を経て、親切で思いやりにあふれ心配りができる素敵な青年になっていました。それでいて、ふとした場面では今もほろっと涙もろさをのぞかせます。持ち寄った昔のアルバムに年長組担任だった私が記した当時の彼のよさをや持ち味を読みながら、「そういえば、職場で今も同じようなことを言われます」と照れくさそうに話してくれました。その言葉に、安堵とも感動とも言えない深い喜びを感じました。

B さんは、製作と虫が大好きな創造力豊かで芯の強い子どもでした。今は建築を学び、その根底には「自然との融合」というテーマがあるそうです。「この前、けやきの苗木を自宅の植木鉢に植えてみました」と、はにかみながら話す姿に、自然への興味や尽きることのない探究心とともに、好きなことを追究するまっすぐな情熱を感じました。その瞳には、幼い頃と変わらないキラキラした輝きがありました。

名物：新聞迷路
～親子で遊ぼう～



人懐こく純真で、いつも年上のお兄さんやお姉さんにかわいがられていた C さん。現在は仕事の傍ら、小学生にバレーボールを教えているそうです。「優しくて楽しい先生」と子どもたちから慕われていることを人づてに聞き、かつてたくさんの人から愛情を注がれていた C さんが、その温かさを今度は年下の子どもたちへと受け渡しているように感じ、大変嬉しく思いました。

そして D さんは、年中組の頃から「将来は家業を継いでコックさんになる」と話していました。ままごとのフライパンでハンバーグを返す手つきが驚くほど本格的だったことを、今でもよく覚えています。その夢を貫き、現在は本格的な料理店で働きながら、将来実家のお店を継ぐため日々修行を重ねているとのことでした。「この前、料理長から〇〇を作る許可が出ました！」―そう嬉しそうに報告してくれる姿が印象的でした。何年にも渡る修業の日々には、想像以上の苦労や努力があることと思います。それでも夢や目標に向かって、一歩一歩ひたむきに歩みを重ねる姿からは、強い信念と前へ進む力を感じ、私自身も大いに励まされました。そして、幼い頃から抱き続けてきた夢を追いかける彼を、今も応援できることの幸せを感じました。



はっけよいのこった
～親子で遊ぼう～

二十年近くの歳月を経て再会した彼らは、みな立派な社会人となり、それぞれの場で力を発揮していました。しかし何より心に残ったのは、幼児期から原石のように輝いていた「よさ」や「持ち味」が、今もなお彼らの中核として輝き続けていたことです。

それはきっと、その後の人生や出会いの中で、ご家族をはじめ周囲の方々が「よさや自分らしさ」を認め、大切に育んでこられたからなのでしょう。そして本人自身もまた、自分らしさを受け止め、それを力に変えて歩んできたからこその姿なのだと思います。

だからこそ、私たち教職員の役割は、目の前の子どもたち一人ひとりの「よさ」「らしさ」「持ち味」などを様々な角度から見つけ、大切に育むこと、そして、その姿を保護者の皆様とも共有しながら、子ども自身が自分のよさを感じ、自信につなげていけるよう支えていくことなのだと感じます。これからも保護者の皆様と共に、お子様の成長を喜び合い、小さなエピソードを分かち合いながら、一人ひとりの持ち味が輝く温かな園生活を、教職員一同大切にしてまいります。



TBC（東京番町コレクション）
～親子で遊ぼう～